

キラリ看護部



Vol.3

急性期看護について



今回は急性期看護の（新館病棟）「キラリ看護」を紹介します。

急性期病棟ってどんなところかご存知でしょうか？当院に入院されたことのある方はご存知かと思いますが、スタッフは常に動きまわり、患者さんからも「看護師さん、忙しいですね。」と言われるような、まさに急性期ならではのバタバタした雰囲気のあるところですよ。ナースコールにすぐに対応できずお待たせして反省することもよくあります。そのような忙しい中でも、「キラリ輝く看護」を感じる瞬間があり、看護について思っていることがあります。今回は、ある患者さんとの関わりの中でとてもうれしかったエピソードを

ご紹介します。

ある高齢の方が、他の病院で手術と治療を終え、人工呼吸器を装着したまま転院して来られました。意識ははっきりせず、食べることが難しいため点滴治療を受けておられました。

そんなある日、担当看護師は患者さんが自分で呼吸をしようとしてしていることに気がつきました。早速主治医へ報告し、人工呼吸器を外してみると、自分で呼吸をされ始めたのです。リハビリも始まり、車椅子に乗って移動できるまで回復されました。車椅子に乗るとベッドの上では伏し目がちであった患者さんが、目を開けて周りの風景を見る様子がうかがえました。自宅の話をするときやかな表情を浮かべ、こちらまで嬉しくなりました。きっと、元気な頃を思い出されていたのでしょうか。

さらに驚いたことに、口の中をケアしているとき口をもぐもぐさせておられるではありませんか。すかさず、主治医へ報告し、何か食べていただ

第44号より、看護部の連載が始まりました！このタイトルは看護師ならだれもが知っている、川島みどり先生の本「キラリ看護」を参考にさせて頂いていただきました。よろしく願います。



患者さんの状態をスタッフ同士で共有します

くことになりました。ご家族にそのことを伝えると、早速ミカンゼリーを準備してくださいました。スプーンでゼリーを口の中に入れると、ゆっくりと口を動かしゴックンと上手にゼリーを飲みこまれました。一口食べては口を開け、とうとうゼリーを1個全部食べることができました。その様子をご家族の方に伝えると、とても喜んでくださり、私たちもみんな喜びました。つらい治療をがんばってこられた患者さん、

久しぶりに食べることを楽しんでいただけたと思います。



ナースコールを受け病室へ

急性期病棟は入退院が多く慌ただしいところですが、いつもと違わずちよつとしたことに気づくという看護の力を発揮し、ご家族とともに喜びを感じた瞬間でした。

これからも、患者さんから「邑智病院に入院して良かった。」と思ってもらえるような「キラリ輝く看護」を目指していきます！

